

4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向

4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向

目標1 多様なひと・もの・ことが集まり
新たな産業・文化・交流が生まれる都心

基本方針 1-1 多くの人を呼び込む 「高次都市機能の集積」

- 1-1-1 アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成
- 1-1-2 北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積
- 1-1-3 多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実
- 1-1-4 地域特性に応じた機能の誘導

基本方針 1-2 札幌らしい 「都市ブランド力の強化」

- 1-2-1 エリアの魅力や個性の発揮
- 1-2-2 誰もが快適に過ごせる環境の整備
- 1-2-3 みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成
- 1-2-4 札幌らしさが際立つ魅力的な景観の形成

基本方針 1-3 「シティプロモーションの強化」

- 1-3-1 都心の魅力や価値を国内外に届けるシティプロモーションの強化

目標2 冬でも、誰でも、
まち巡りが楽しい都心

基本方針 2-1 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

- 2-1-1 格子状の街路網の特徴を生かした、ストリートの魅力や個性の創出
- 2-1-2 選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリートの形成
- 2-1-3 積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成や賑わいの創出

基本方針 2-2 都心のまちづくりを支える 「機能的な交通環境の構築」

- 2-2-1 都心に必要な交通機能やアクセス環境の確保
- 2-2-2 四季を通じて快適に移動できる環境の充実

基本方針 2-3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

- 2-3-1 パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出による賑わい・交流の促進
- 2-3-2 雪という札幌の個性を活かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進
- 2-3-3 限られた道路空間の運用の全体最適化
- 2-3-4 関連分野と連携した取組

目標3 気候風土に即した先進的な
脱炭素化・強靱化の取組が進む都心

基本方針 3-1 最適な手法の組み合わせ による脱炭素化の推進

- 3-1-1 建替更新・改修時の徹底した省エネ化の推進
- 3-1-2 エネルギーの面的利用の更なる拡大と効率化
- 3-1-3 先進技術を活用した再生可能エネルギーの導入

基本方針 3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

- 3-2-1 災害時における市民、来街者、ワーカーの安全確保
- 3-2-2 経済活動を維持するための備えの充実
- 3-2-3 多様な主体による防災に向けた取組の促進

基本方針 3.3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

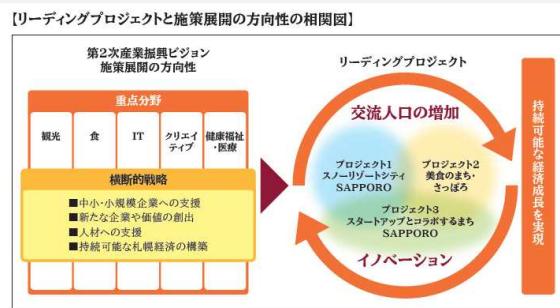
- 3-3-1 建物の特性に応じた効果的な取組誘導
- 3-3-2 着実に脱炭素化を推進するための実績評価

4.1 目標の実現に向けた取組の方向

目標1

多様なひと・もの・ことが集まり、
新たな産業・文化・交流が生まれる都心

<参考> 第2次札幌市産業振興ビジョン



産業振興ビジョンでは、国内外への発信力を持つ「観光」・「食」を交流人口増加の呼び水とし、「スタートアップ」の革新的な技術や発想を基に、イノベーションを創出するエンジンとして相乗効果を生みながら産業振興を図ることを目指しています。

特に都心は、ビジネス環境の優位性による業務集積、観光・食の中心地として経済活力をけん引することが求められます。都心まちづくり計画では、まずその機能集積を重視するとともに、人が多く集まることを生かし、イノベーションが起こりやすい環境、交流を促す快適環境を充実させていくことを目指します。

1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

国内外からビジネスパーソンや観光客が訪れたいくなり、市民にとっては働く場としても出かけたくなる場としても魅力的に感じる都心であるために、都市機能の集積・高度化を図ります。建物の更新を適切にとらえ、投資を呼び込み、経済をけん引する国際的な活動の拠点にふさわしい市街地を形成します。

1-2 札幌らしい「都市のブランド力の強化」

エリアマネジメントの推進により都心の各エリアが個性を磨き、みどりや雪を活かした景観や誰もが快適に過ごせる環境を整えていくことで、世界が憧れ市民が誇れる「札幌らしさ」を醸成していきます。

1-3 シティプロモーションの強化

都心まちづくりの取組を共有し浸透を図り、多様な主体が一体となり都心の魅力や価値を発信することに注力します。共感した市民や来街者が発信することを促し、さらに人や投資を呼び込んでいく好循環が生まれることを目指します。

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1 - 1 - 1 アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成

取組の方向

◆ 札幌・北海道の経済をけん引する企業の集積 (取組例)

- ・ GX産業の集積を見据えた金融機能集積・強化（資産運用会社の誘致等）
- ・ BCP適地の強みを生かした国内外の本社機能の誘致
- ・ 世界水準の高機能オフィスの整備

◆ ワーカーの更なる活躍を引き出すビジネス環境の整備 (取組例)

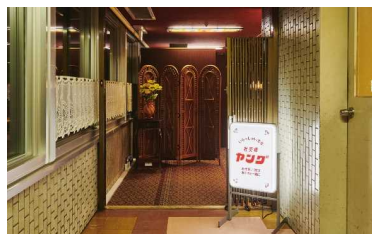
- ・ 多様で豊かな働き方を促すワークスペースの充実
- ・ 企業や人材の交流を促す場・機会の創出
- ・ スタートアップによる実証実験等の受入環境の充実
- ・ 誰もが気軽に利用できるパブリックスペースの充実
- ・ ウェルビーイング向上に資する環境の充実



【参考イメージ】高機能オフィス



札幌市企業誘致スローガン・ロゴ
「大札新」



市役所12階スタートアップ交流拠点
「社交場ヤング」

「GX 金融・資産運用特区」を通じて北海道・札幌が目指す姿

「GX 金融・資産運用特区」を通じて目指す姿

日本の再生エネルギー供給基地、世界中から資金・人材・情報が集積するアジア・世界の「金融センター」

- ・ 国内随一の再生エネルギーポテンシャルと世界を魅了する札幌の街の魅力を活かし、「GX金融・資産運用特区」を活用しながらGX産業のサプライチェーン構築・雇用創出を図ります。
- ・ 新技術やイノベーションを生み出すスタートアップの創出・育成を進め、世界中から資産運用会社等の金融機能を北海道・札幌に呼び込みます。



出典：Team Sapporo-Hokkaido HP

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1 - 1 - 2 北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積

取組の方向

◆ 多様な交通アクセスの充実・交通結節点の強化

(取組例)

- ・ 新幹線の延伸を契機とした交通結節点としての機能強化
- ・ 多様な交通モードでのアクセスを支える環境整備

◆ 多様な層を受け入れる滞在環境の充実

(取組例)

- ・ 富裕層を受け入れる世界水準のハイグレードホテルの整備

◆ MICEの推進

(取組例)

- ・ 継続的なMICEの誘致
- ・ 既存資源を活かしたアフターコンベンションプランの充実

◆ 札幌ならではの付加価値の高い観光コンテンツの提供

(取組例)

- ・ 歴史や文化財、食、自然などの既存資源を活かした観光コンテンツの創出

◆ 観光客の受入機能の強化

(取組例)

- ・ 観光案内所の機能強化
- ・ 手荷物預かり、手荷物配送の機能強化



【参考イメージ】
JR北海道 H5系(JR北海道 提供)



【参考イメージ】すすきの夜間観光



【参考イメージ】
北三条広場(アカプラ)のスケートリンク



【参考イメージ】ハイグレードホテル

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1 - 1 - 3 多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実

取組の方向

◆ 多くの人をひきつける機能の集積

(取組例)

- ・ 飲食・買い物・娯楽など商業機能の集積
- ・ 文化芸術、エンタメなど多様な集客交流施設の充実
- ・ 多様な使い方ができるパブリックスペースの充実

◆ 豊かな時間消費を支える場と機会の充実

(取組例)

- ・ 文化芸術・スポーツ・エンタメなど多様なイベントの誘致
- ・ パブリックスペースの柔軟な活用



【参考イメージ】狸小路商店街



【参考イメージ】札幌駅



【参考イメージ】
札幌文化芸術劇場hitaru



【参考イメージ】
大通公園・さっぽろライラックまつり



【参考イメージ】
大通公園・ブラックスライドマントラ



【参考イメージ】
札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

1 - 1 - 4 地域特性に応じた機能の誘導

取組の方向

◆ 地域特性やまちづくりの動向をふまえた機能の誘導

(取組例)

- 各地域の特性（まちづくりゾーン*等）に応じた機能を誘導・育成（業務・商業・集客交流・宿泊・教育・居住・生活利便等）
- 居住機能に関するエリア別の誘導方針の検討
- エリア別のまちづくりガイドライン策定
- 建替や既存建物の改修等を促す方策の導入

<まちづくりゾーン(案)>

札幌駅北ゾーン

- 札幌駅・北海道大学との近接性を生かし、業務・居住・宿泊機能などが混在

大通ウエストゾーン(北)

- 業務・宿泊を中心とした土地利用
- まとまりのあるみどりや複数の文化施設が立地

大通ウエストゾーン(南)

- 居住・業務を中心とした土地利用
- 市電沿線などに路面店が立地

すすきのゾーン

- 北海道を代表する歓楽街として遊戯・娯楽施設・飲食店が多く集積

中島公園駅ゾーン

- 宿泊・居住を中心とした土地利用
- 多様な地域資源が点在

札幌駅南ゾーン

- 札幌の玄関口として業務・商業・宿泊機能が集積
- エネルギーネットワークによる高い環境・防災性能を保持
- 地下空間や広場など屋内外の滞留空間が充実

創成イーストゾーン(北)

- 居住・業務・商業機能などが混在
- 歴史資源が存在

創成イーストゾーン(南)

- 居住を中心とした土地利用
- 多様な地域資源が点在

大通中心街ゾーン

- 歴史ある商業街として百貨店、路面店などが集積
- 地下街、地下鉄駅など地下空間が充実

<地域別の機能誘導方針(案)>

※ まちづくりゾーンを踏まえた誘導方針として設定

都心機能強化先導エリア

高次の業務、商業、交流機能等の集積と、環境・防災性能の向上

主に指定容積率
400%以下の区域
職・住・遊の適切な複合市街地を形成

都心全域

地域特性に応じた機能を誘導・育成

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-2 札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1 - 2 - 1 エリアの魅力や個性の発揮

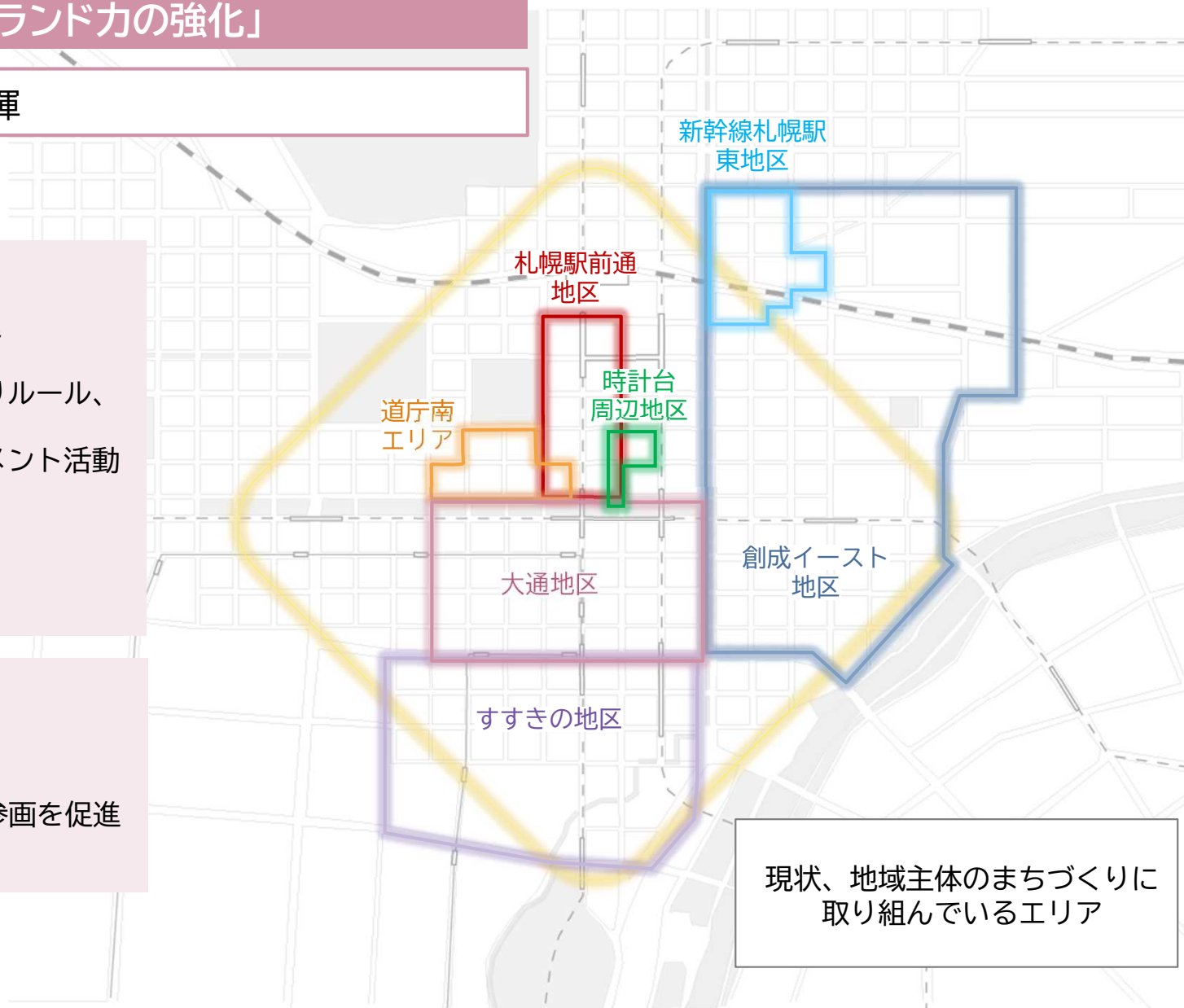
取組の方向

◆ 地域主体の地区まちづくりの推進 (取組例)

- ・ エリアごとの将来像、地区まちづくりルール、ガイドライン等の検討・共有
- ・ エリアのブランド力を高めるマネジメント活動の推進（公共的空間の利活用など）
- ・ 新たな地区まちづくりの機運醸成
- ・ エリア間連携の促進

◆ まちへの愛着の醸成 (取組例)

- ・ 若者など多様な人のまちづくりへの参画を促進



■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-2 札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1 - 2 - 2 誰もが快適に過ごせる環境の整備

取組の方向

◆ 誰もが利用しやすい環境の整備 (取組例)

- ・ 歩行空間・公園・公共施設・民間施設などのバリアフリー化及びユニバーサルデザインの導入促進
- ・ 子どもと共に訪れ滞在しやすい環境の整備

◆ 多言語に対応したわかりやすい案内の充実、情報発信の強化 (取組例)

- ・ 案内サイン、誘導サインの多言語化
- ・ ピクトグラムの積極的活用
- ・ 統一感を持たせたデザインの検討

◆ 安心して訪れることができる環境の整備 (取組例)

- ・ 客引き防止などの取組みの推進

札幌市『ユニバーサル展開プログラム』



【参考イメージ】エレベーターの新設
(札幌市 札幌市バリアフリー基本構想)



【参考イメージ】見やすさに配慮した案内
板の例(札幌市 福祉のまちづくり醸成施
設整備ガイドブック)

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-2 札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1 - 2 - 3 みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成

取組の方向

◆ 多面的な機能をもつ都市緑化の促進

(取組例)

- ・ 公園・街路樹など公共的なみどりの充実・強化
- ・ 民有地における魅力的な屋内外のみどり空間の創出
- ・ 自然環境が有する多様な機能（グリーンインフラ）の活用
- ・ まちへの愛着を育むみどりの維持管理活動の展開

みどりの機能

- ・ 気候変動対応、生物多様性確保、幸福度(Well-being)の向上等の課題解決に向けて、緑地が持つ機能に対する期待が高まっています。
- ・ 札幌市みどりの基本計画では、みどりの機能を発揮する「自然」「都市」「ひと」の3つの対象ごとに整理しています。

自然

- ①自然環境の保全
- ②地球環境問題への対応



【参考イメージ】緑陰のある通り

都市

- ③都市環境の形成
- ④防災機能の発揮
- ⑤観光まちづくり・地域経済への寄与



【参考イメージ】
建物と調和した並木

ひと

- ⑥さまざまな世代が利用できる場の提供
- ⑦コミュニティの形成



【参考イメージ】
大通公園のイベント

◆ 建築物等における道産木材利用の促進

(取組例)

- ・ 建築物における道産木材の利用促進
- ・ パブリックスペースにおける内装材・ベンチ等への道産木材の利用促進

木材利用の効果 (参考:林野庁資料)

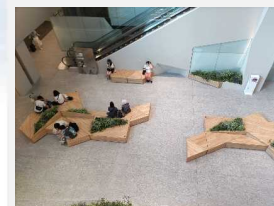
- ・ 木材の建築物への利用は、建築物のエンボディドカーボン(建物やインフラの建設や改修に際して排出される温室効果ガス量)の削減に寄与するとともに、「伐って、使って、植えて、育てる」という資源の循環利用の促進につながる、カーボンニュートラルに向けて有効な取組です。
- ・ また、木材を利用した空間は、人々の心地よさを高める効果や滞在時間を長くする効果、企業価値の向上など、カーボンニュートラルだけでなく多様な効果も期待されます。



【参考イメージ】
木材を活用した建物
(ザ ロイヤルパーク
キャンパス札幌大通公園)



【参考イメージ】資源の循環サイクル
(札幌市 森づくり基本方針)



【参考イメージ】
木のベンチを配置した
屋内広場
(D-LIFEPLACE札幌)

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-2 札幌らしい「都市ブランド力の強化」

1 - 2 - 4 札幌らしさが際立つ魅力的な景観の形成

取組の方向

◆ 都心の先進性の中にも歴史やみどりを感じる景観形成の推進

(取組例)

- ・ 歴史資源や通りごとの特徴を活かした景観の形成
- ・ 通りごとの特徴を活かしたみどりのネットワークの強化



【参考イメージ】札幌駅前通の夜間景観



【参考イメージ】北3条広場(アカプラ)

◆ 季節や時間ごとに異なる表情やにぎわいを感じる景観形成の推進

(取組例)

- ・ 夜間照明や雪を活かした景観の形成
- ・ 誰もが気軽に利用できるパブリックスペースの充実と利活用の促進
- ・ 沿道と道路を一体的に捉えた空間のデザイン（沿道建物低層階のガラス張り化など）
- ・ 沿道の路面店等による道路空間の一体的な利用（オープンカフェ、緑化など）



【参考イメージ】地下歩行空間の活用



【参考イメージ】道路空間の活用
(シャワー通社会実験)

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (1)目標1の実現に向けた取組の方向

基本方針1-3 シティプロモーションの強化

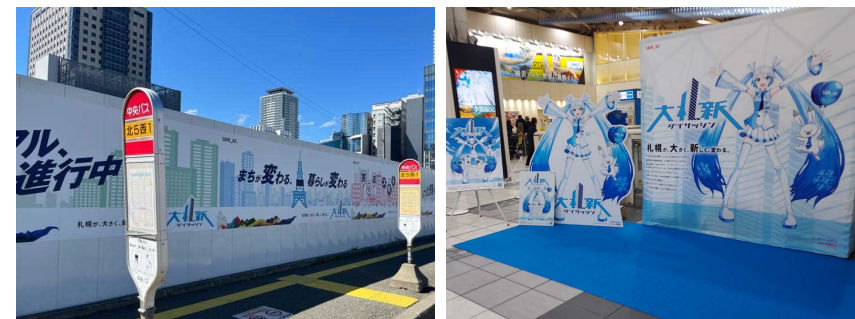
1 - 3 - 1 都心の魅力や価値を国内外に届けるシティプロモーションの強化

取組の方向

◆ 世界に向けた発信力の向上

(取組例)

- ・ 官民一体による企業誘致スローガン「大札新」を活用した都心のリニューアルのPR
- ・ まちづくり団体・民間事業者等、多様な主体が一体となったシティプロモーションの仕掛けづくり
- ・ 市民・来街者が札幌の魅力を発信したくなる機運の醸成



札幌市企業誘致スローガン・ロゴ「大札新」を活用した市内外でのPR

◆ 都心まちづくりの取組の共有・浸透

(取組例)

- ・ 都心まちづくり計画の効果的な発信・共有
- ・ 官民による取組のPR



「笑顔になれる街」札幌をイメージしたロゴ『SAPP-RO』とテレビ塔

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた取組の方向

目標2

冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

【基本的な考え方】

I ストリート（※1）における四季を通じた多様な活動の創出

- ・積雪寒冷地の特性を踏まえつつ、官民が持つ様々なパブリックスペース（公共的空間※2）を一体的に捉え、人と人の出会い、滞留、交流、自己表現などの「多様な活動が生まれる魅力的な空間」に改変するとともに、空間を「柔軟に活用できる仕組み」を構築する。

※1 ストリート：街路のみならず沿道等も含む

※2 パブリックスペース：道路、公園、広場などの公共空間や民間施設（公開空地等）の半公共空間。来街者が自由に出入りできる場所

II 様々な活動を支える安全・安心かつ円滑な交通環境の構築

- ・都心における人やモノの「移動環境」、人々の乗降や荷さばきなどの沿道への「アクセス環境」の向上を図り、空間を「効果的・効率的に運用できる仕組み」を構築する。

（全般的な視点）

（空間形成の視点）

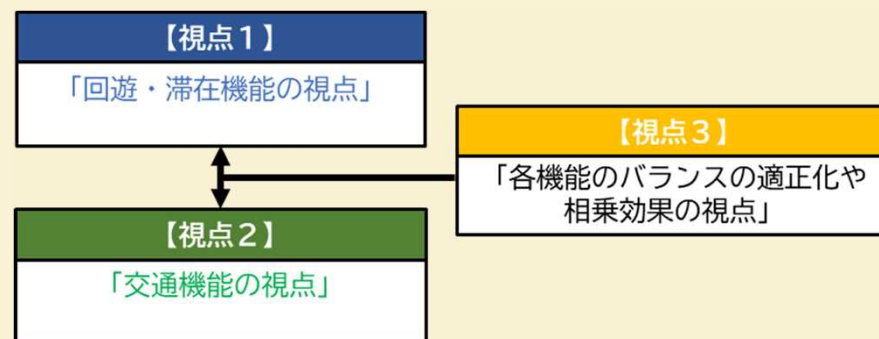
【基本方針】



（具体化）

【取組の方向、取組例】

【空間形成指針】



（具体化）

【主要検討路線、重点的に検討を進める路線等】

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた取組の方向

基本方針2-1 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

2 - 1 - 1

格子状の街路網の特徴を生かした、ストリートの魅力や個性の創出

取組の方向

◆ 回遊の基軸となる象徴的なストリートの形成

(取組例)

- ・ 骨格軸などの主要な通りの更なる魅力化
- ・ エリアのまちづくり活動や開発の機運などを踏まえた魅力的なストリートの形成



【参考イメージ】ランブラス通り（バルセロナ市）

◆ 街路と沿道が一体となった魅力的な街路空間の形成

(取組例)

- ・ 既存の沿道状況や建替え等に合わせた街路空間の検討（必要に応じて道路空間再編の検討など）
- ・ 沿道と道路を一体的に捉えた空間のデザイン（沿道建物低層階のガラス張り化など）
- ・ 沿道の路面店等による道路空間の一体的な利用（オープンカフェ、緑化など）



【参考イメージ】サンキタ通り（神戸市）

◆ 見通しの良さを活かした通りの景観形成や交差点における辻空間の魅力の向上
(点と線のデザイン)

(取組例)

- ・ 遠景、奥行き感、丁字路のアイストップ等を生かした空間デザインの検討
- ・ エリアや路線の特徴を踏まえた交差点の特徴付け（緑化、ゆとりのある空間など）
- ・ 路線や区間によって変化のある空間形成（沿道も含めた緑化、舗装材等によるデザインの工夫など）



【参考イメージ】北3条広場

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた取組の方向

基本方針2- 1 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

2 - 1 - 2 選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリートの形成

取組の方向

◆ 季節や天候、目的等による選択性が高い、滞在空間や回遊動線の創出

(取組例)

- ・ 屋外環境に左右されにくい屋内や半屋内の滞在空間の創出（地下、公開空地等）
- ・ 公園、道路や民間敷地内におけるみどり豊かな空間の充実
- ・ 界索性や奥行きを出すための中通りの魅力化や敷地内貫通通路の整備誘導



【参考イメージ】
チ・カ・ホ



【参考イメージ】
モントルグイユ地区（パリ市）

◆ パブリックスペースにおける滞留や交流などの多様な活動ができる空間の創出

(取組例)

- ・ 立ち止まる、座る、食べる、遊ぶ、買い物をする、パフォーマンスをするなどの多様な活動が行える空間の整備



【参考イメージ】大通公園（実証実験）

2 - 1 - 3 積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成や賑わいの創出

取組の方向

◆ 積雪期の魅力と賑わいも考慮した札幌都心ならではのストリートの形成

(取組例)

- ・ 公共空間等における冬の魅力的な街並みの創出（雪や光などを活かした空間演出）
- ・ 街並みを眺められる空間の充実（沿道のカフェ、公開空地など）



【参考イメージ】札幌駅前通

基本方針2- 2 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

2 - 2 - 1

都心に必要な交通機能(※1)やアクセス環境(※2)の確保

※1 交通機能：ヒトやモノが移動するための機能（徒歩、自転車、公共交通、乗用車、貨物車等による目的地までの移動。駐車施設等も含む）

※2 アクセス環境：人々の乗降やに荷捌きなどの沿道にアクセスするための機能

取組の方向

◆ 各路線相互の機能分担と各路線における必要な機能の配置

(取組例)

- ・ 各エリアや各路線における必要な機能の配置

◆ 都心を目的地としない通過交通の適切な誘導等

(取組例)

- ・ 交通機能が重視される路線の交通円滑化

◆ 都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保

(取組例)

- ・ 民間開発との連携による交通施設の整備（共同荷さばき場、観光バス乗降場等）
- ・ 路上荷さばき場、バス停、タクシー乗降場、観光バス乗降場・駐車場などの必要な空間の確保
- ・ 荷さばきの効率化に資する取組の誘導（大型施設における館内物流体制の構築、荷さばき規制緩和区間の適正利用促進など）
- ・ 既存の駐車施設の利用分散等による混雑の緩和

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた取組の方向

基本方針2- 2 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

2 - 2 - 2 四季を通じて快適に移動できる環境の充実

取組の方向

◆ 安全・安心かつ円滑な歩行者動線の充実

(取組例)

- ・ 北海道新幹線札幌延伸を見据えた、駅から都心各所への移動経路の充実
- ・ 歩行者動線の更なるバリアフリー化（官民連携による地下歩行ネットワークの拡充、地上・地下動線の充実など）



【参考イメージ】北8西1地下通路

◆ 広域交通結節点と都心内の移動手段との接続の円滑化

(取組例)

- ・ 各交通との接続環境の充実（地下鉄、鉄道（JR）、バス、タクシー、路面電車、新たな公共交通、シェアサイクルなど）
- ・ 情報提供の充実（案内サイン、ICTを活用した情報発信など）

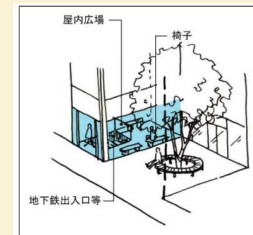


【参考イメージ】シェアサイクルポート

◆ 公共交通などの待合い、休憩環境の充実

(取組例)

- ・ 沿道施設への待合いスペースの整備誘導など
- ・ 移動途中における屋外の暑さや寒さをしのぎ、休憩できる空間の充実（クーリングシェルターなど）



【参考イメージ】屋内広場（札幌市資料）

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた取組の方向

基本方針2-3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

2-3-1 パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出による賑わい・交流の促進

取組の方向

◆ エリアや建物等のコンセプトに合ったパブリックスペースの多様な利活用の促進

(取組例)

- ・ 規制緩和や利活用ルールの特典化（公共空間の占有許可基準の特典化や公開空地活用のルールの特典化の検討、検証のための社会実験の実施など）



【参考イメージ】南1条通社会実験

◆ 柔軟かつ持続可能な利活用を実現する仕組みや体制の構築と情報発信

(取組例)

- ・ まちづくりのプレイヤーの発掘・育成（社会実験等を通じた取組）
- ・ 運営主体の資金確保（収益を得られる仕組みの検討）
- ・ 市内外への積極的な情報発信（機運醸成やプレイヤー発掘の視点）



【参考イメージ】ストリートデザインスクール@札幌
提供：札幌駅前通まちづくり株式会社

2-3-2 雪という札幌の個性を活かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進

取組の方向

◆ 冬季の屋外空間や屋内空間の柔軟な利活用

(取組例)

- ・ 歩道に面した屋内や半屋内の広場、地下空間や屋内の公開空地等の利活用の促進
- ・ 屋外の広場や公開空地における、雪を活かした特徴的なイベント実施等の促進



【参考イメージ】
モユクサッポロ（公開空地の活用）

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向（2）目標2の実現に向けた取組の方向

基本方針2-3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

2 - 3 - 3 限られた道路空間の運用の全体最適化

取組の方向

◆ 求められる様々なニーズに対する既存道路の利活用の工夫や道路の構築・再編等

（取組例）

- ・ さっぽろシャワー通り（荷さばきや歩行者のニーズに対応した一事例）



【取組イメージ】
さっぽろシャワー通り

2 - 3 - 4 関連分野と連携した取組

取組の方向

◆ 健康（ウェルネス）や脱炭素（エネルギー）施策等への波及

（取組例）

- ・ 来街者の歩行数増加による健康増進
- ・ 公共交通の利用促進や交通の円滑化等による二酸化炭素排出量の削減 など



【取組イメージ】
南1条通社会実験

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた取組の方向

【イメージパース1：商業エリア、初夏、休日（昼間）のイメージ】

- ・ゆとりのある歩行者空間や通りに開かれた魅力的な店舗などがあり、通りと沿道が一体となった魅力的なストリートが形成されている。
- ・訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、街にみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる空間になっている。
- ・街のにぎわいや人々の回遊など様々な活動を支えるために必要な、公共交通、自転車、荷さばき等の交通機能の空間が確保されている。

木質化や再生エネルギーの利用などの環境に配慮した建物

沿道ビルの公開空地などから、街の風景やにぎわいを感じられる

荷さばきや人々の乗降など複合的な用途として使用可能な空間の確保により、都市活動が円滑に行われている

新たな公共交通を利用することで、都心及び周辺エリアの回遊がしやすい

自転車などの走行空間やシェアサイクルポート（駐輪場）が確保されていて、都心へのアクセスや回遊がしやすい

街路樹はもとより、足元や沿道ビルにも花やみどりがあり、歩いている楽しい

見通しの良さを活かした奥行きのある空間デザイン

通りに対してにぎわいのある路面店が連続しており、歩いて楽しい

オーニング（日よけ）や街路樹による緑陰の下で快適に休憩ができる

ガラスの外装やオープンカフェ等により、通りに開かれた店舗が立ち並んでいる

辻空間が魅力的でにぎわいが通りに滲み出ている

歩道や沿道建物がバリアフリーになっており、誰もが移動しやすい

シェアサイクルが充実しており、移動手段の選択性が高い



■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた取組の方向

【イメージパース2：象徴的な通り、冬、夜、地上・地下のイメージ】

- ・地上は、来街者が思い思いに雪と触れ合える広場的な空間が充実している。
- ・雪と光を活かした札幌都心ならではの美しい景観が形成されており、沿道建物からは美しい景観や人々の活動を眺められる。
- ・地下は、四季を通じて安全・安心かつ円滑に移動ができ、にぎわいが感じられる歩行空間が形成され、天候に左右されず回遊できる。
- ・その時々状況や目的に応じて、屋外と屋内（沿道・地下）を行き来できるなど選択性が高い。

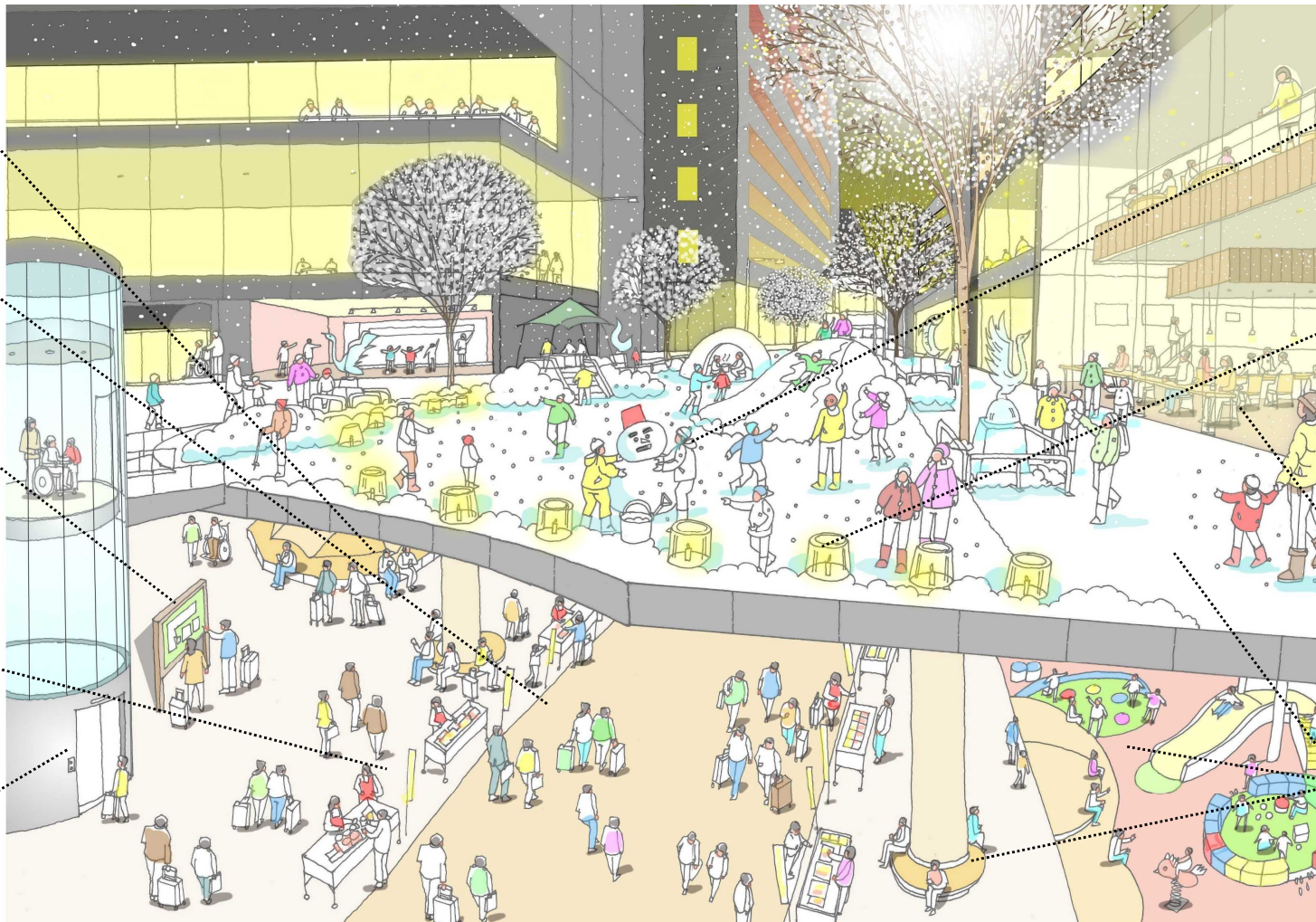
【地下】ベンチ等が設置された滞留空間があり、来街者が暖かい空間で休憩したり、ワーカーが移動の合間にちょっとした仕事などができる

【地下】冬期間においても誰でも安全・安心かつ円滑に移動ができる

【地下】案内表示に掲載されている情報(※)が充実しており、観光客などでも迷わずに目的地まで移動できる。
※主要な商業・観光・業務・宿泊施設、公開空地等の休憩・滞在ができる空間、トイレ、コインロッカー等の情報

【地下】沿道や広場の空間には、思わず立ち寄りたくなるような店舗やコンテンツが充実している

【地上・地下】地上と地下を結ぶバリアフリー動線が充実している



【地上】イベントだけではなく、来街者が思い思いに雪と触れ合える広場的な空間が確保されている

【地上】雪と光を活かした積雪寒冷地ならではの美しい景観

【地上】低層部に屋内外の公開空地等の開放された空間があり、来街者が自由に滞留でき、ストリートの景色や人々の活動などを眺められる

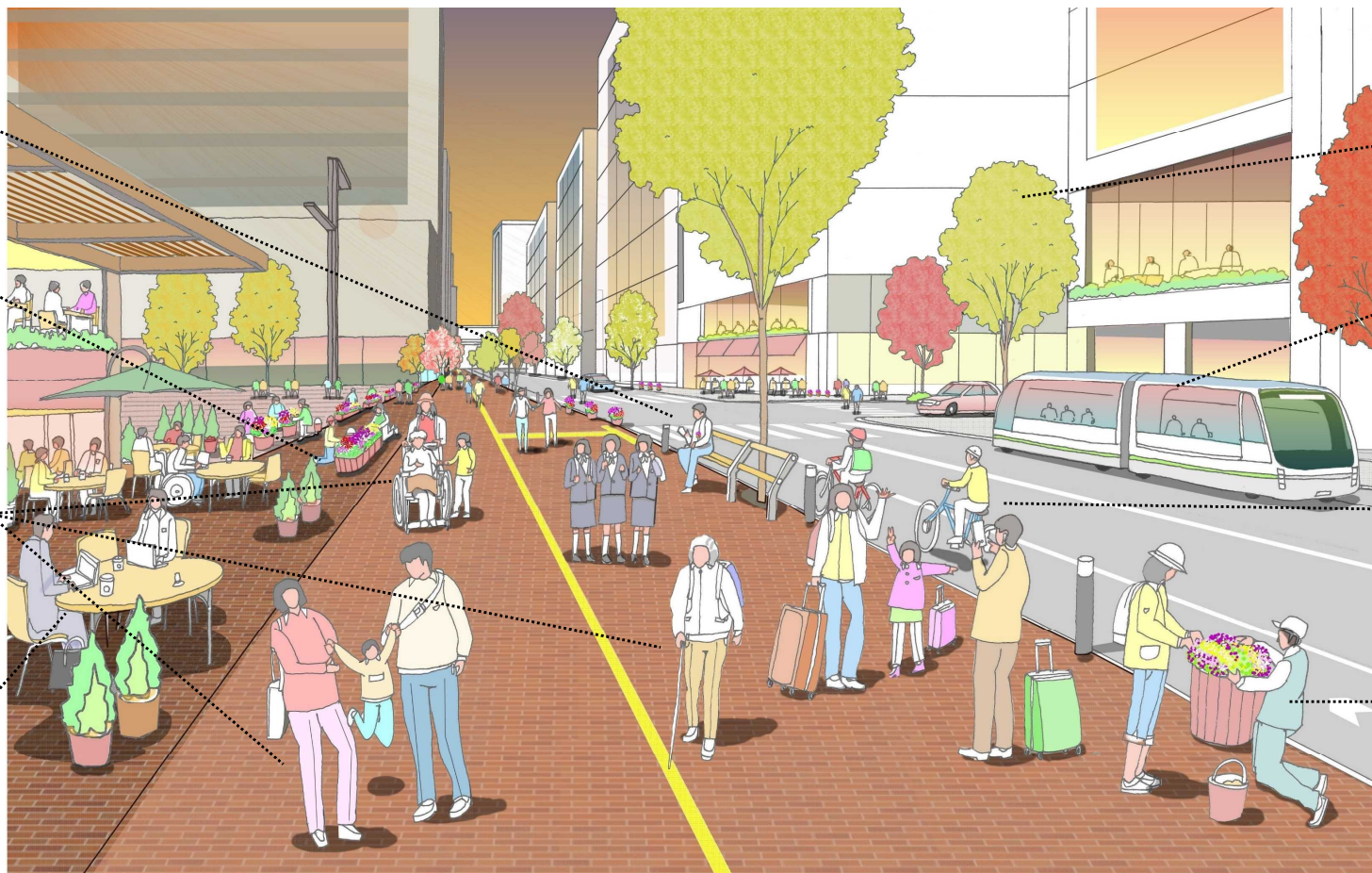
【地上・地下】来街者それぞれの目的や状況に応じて、移動経路や滞留場所が選択できる

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた取組の方向

【イメージパース3：主要な通り（アイレベル）、秋、夕暮れ（平日）のイメージ】

- ・道路と沿道敷地が一体となったゆとりのある連続した歩行空間があり、誰でも安全・安心かつ楽しく移動ができる（家族連れや目の不自由な方、車いす利用者などへ配慮されている）
- ・街路樹などにより四季の移り変わりを感じられる街並みが形成されている。
- ・新たな公共交通などのモビリティが通行する、象徴的な通りとなっている。



- ・移動途中にちょっとした休憩ができるベンチ等が設置されている

- ・道路だけではなく沿道の敷地（屋内・屋外）も緑化されている

・道路と沿道が一体となったゆとりがあり、連続した歩行空間があり、誰でも安全・安心かつ楽しく移動ができる

・オフィスワーカーが移動中
や空き時間にちょっとした仕
事ができる

・街路樹などにより四季の移り変わりを感ぜられる街並みが形成されている

・思わず乗ってみたくなる、
札幌らしい魅力的なデザイン
の公共交通が通行している

- ・自転車の通行空間が確保されていて、路上駐停車車両が少なく、安全に通行できる

- ・地域や沿道の関係者がプラ
ンターなどの手入れなどのま
ちづくり活動への参加を通じ
て、交流をしている

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた空間形成指針

- 都心の骨格構造等をベースとし、都心全体への波及効果やエリアのつながりによる相乗効果を発揮するため、空間を「点・線・面」の視点で考えることで、より回遊性や界わい性が高い空間の実現を目指す。
- そのうえで、都心に必要な交通機能を確保するとともに、各機能のバランスや相乗効果を発揮する視点も踏まえる。

【I. 回遊・滞在機能の視点】

～ 増やす、質を高める ～

点

- 魅力的な目的地や滞留空間の形成
 - ・公園や広場、沿道の施設・店舗などの来街者にとって魅力的な目的地が多く、回遊の途中で休憩・滞在・交流ができる質の高い空間を形成

～ つなぐ、強化する ～

線

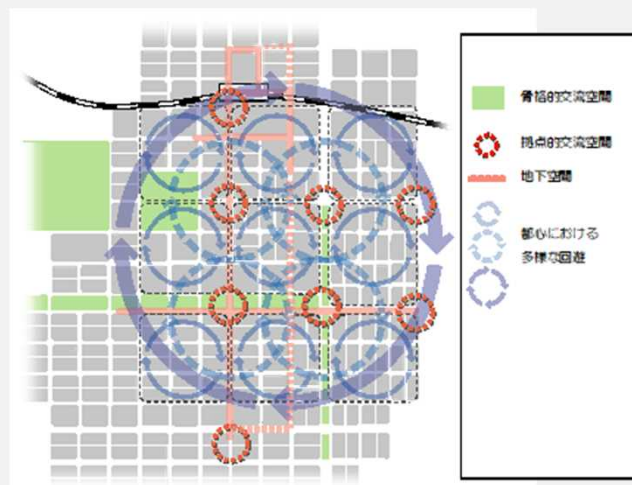
- 魅力的なストリート空間や界わい空間の形成
 - ・緑化などの魅力的な景観、オープンカフェや路面店、広場空間などにより魅力的なストリートが形成され、移動中にもまちな新たな魅力・価値が発見できる
 - ・街区を割る中通りや建物内の貫通通路など、奥行きのある空間が形成され、表通りとは違った変化や個性を感じられる

～ ネットワーク化する ～

面

- 都心全体の回遊促進
 - ・大きな単位のブロック（概ね3×3街区）同士をつなぐ骨格軸を強化し、都心全体の更なる回遊性の向上を図る
 - ・季節や天候、目的によって選択性や快適性が高い地上・地下の重層的な歩行者ネットワークを形成

<左記の考え方を示すイメージ図を作成予定>



【都心部の多様な回遊】



【界わい空間の考え方】

出典：都心まちづくり戦略(札幌市) より

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた空間形成指針

○ 前頁からの続き

【Ⅱ. 交通機能の視点】

～ 強化、充実、適正化する ～

点

- ヒトやモノの移動の拠点、沿道へのアクセス環境の確保
 - ・交通結節機能の強化やモビリティスポットの充実
 - ・公共交通への乗降や沿道施設への荷さばきなど、アクセス環境の確保
 - ・駐車場整備量の適正化や集約化等

～ 確保、充実する ～

線

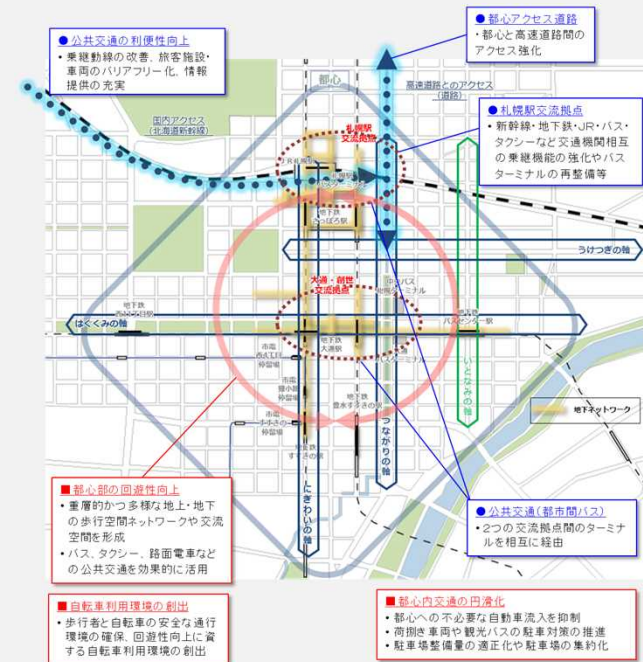
- 都心に重要な交通モードの通行空間の確保・充実
 - ・自転車、公共交通（路面電車、バス、タクシー、新たな公共交通（予定）等）の通行空間の確保

～ ネットワーク化する ～

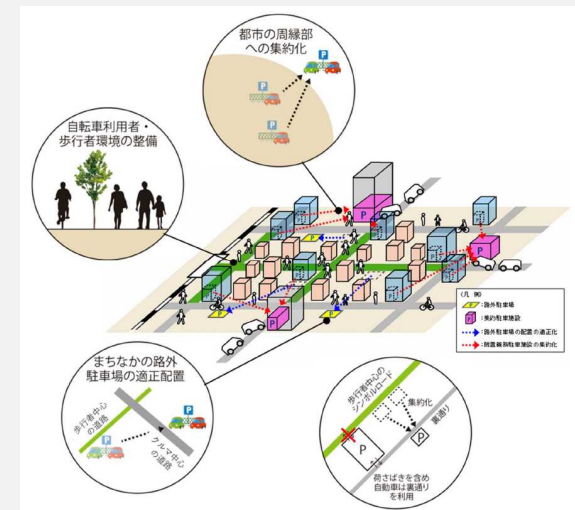
面

- 面的な交通ネットワークの形成
 - ・多様な交通モードが充実した、選択性の高い交通ネットワークの形成
 - ・通過交通の分散等に資する取組の実施

＜左記の考え方を示すイメージ図を作成予定＞



【都心交通全般の考え方】 出典：札幌市総合交通計画



【駐車場集約化等のイメージ】

出典：多様なニーズに応える道路ガイドライン（国交省）

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた空間形成指針

○ 前頁からの続き

【Ⅲ. 共通の視点】

共通

～ バランス、連携、相乗効果 ～

- 各機能のバランスの適正化や連携による相乗効果の発揮
- ・エリアや通りの特性や沿道用途等により求められる機能に応じた回遊・滞在機能と交通機能のバランスの適正化
 - ・交通とまちづくりの連携による相乗効果の発揮

＜左記の考え方を示すイメージ図を作成予定＞

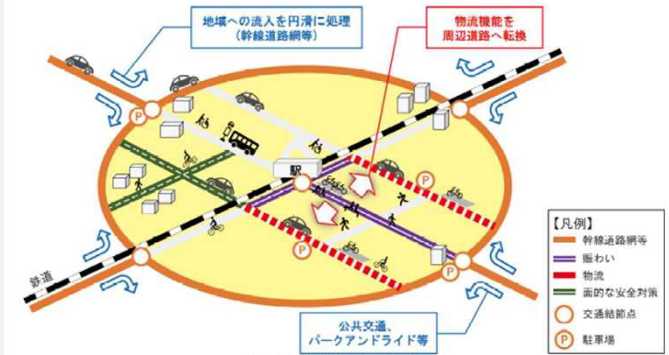


図 3-17 機能分担のイメージ

【機能分担のイメージ】

出典：多様なニーズに応える道路ガイドライン（国交省）

【I. 回遊・滞在機能の視点】（再掲）

点

～ 増やす、質を高める ～

- **魅力的な目的地や滞留空間の形成**
・公園や広場、沿道の施設・店舗などの来街者にとって魅力的な目的地が多く、回遊の途中で休憩・滞在・交流ができる質の高い空間を形成

線

～ つなぐ、強化する ～

- 魅力的なストリート空間や界わい空間の形成
・緑化などの魅力的な景観、オープンカフェや路店、広場空間などにより魅力的なストリートが形成され、移動中にもまちの新たな魅力・価値が発見できる
・街区を割る中通りや建物内の貫通路など、奥行きのある空間が形成され、表通りとは違った変化や個性を感じられる

面

～ ネットワーク化する ～

- **都心全体の回遊促進**
 - ・ 大きな単位のブロック（概ね3×3街区）同士をつなぐ骨格軸を強化し、都心全体の更なる回遊性の向上を図る
 - ・ 季節や天候、目的によって選択性や快適性が高い地上・地下の重層的な歩行者ネットワークを形成

【Ⅱ. 交通機能の視点】（再掲）

点

～ 強化、充実、適正化する ～

- ヒトやモノの移動の拠点、沿道へのアクセス環境の確保
- ・交通結節機能の強化やモビリティスポットの充実
- ・公共交通への乗降や沿道施設への荷さばきなど、アクセス環境の確保
- ・駐車場整備量の適正化や集約化等

線

～ 確保、充実する ～

- 都心に重要な交通モードの通行空間の確保・充実
・自転車、公共交通（路面電車、バス、タクシー、新たな公共交通（予定）等）の通行空間の確保

面

～ ネットワーク化する ～

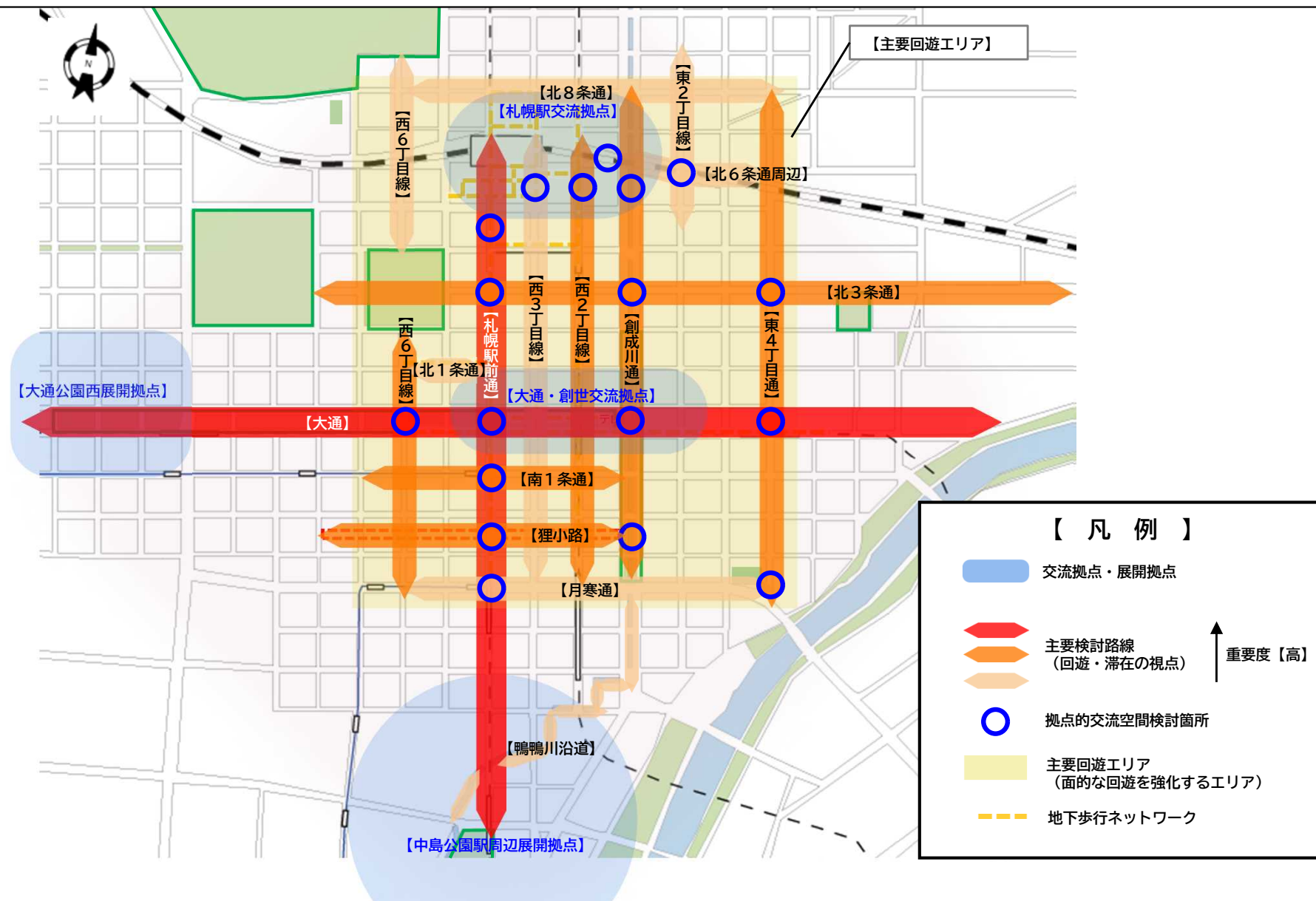
- 面的な交通ネットワークの形成
 - ・多様な交通モードが充実した、選択性の高い交通ネットワークの形成
 - ・通過交通の分散等に資する取組の実施

連携
バランス

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた空間形成指針

- 前頁にて整理した「点（主要な施設・目的地等）」や「主要回遊エリア」を踏まえ、点と点を結ぶ通り（線）とエリアの回遊を促進する「面」の視点に加え、都心の骨格構造や関連計画、関連するまちづくり団体やその取組状況等を加味して、回遊・滞在の視点での「主要検討路線」と「拠点的交流空間検討箇所」を選定する。



■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (2)目標2の実現に向けた空間形成指針

○ 前頁で示した主要検討路線や拠点的交流空間検討箇所における今後の検討の考え方(案)を以下に示す。

凡例(前頁参照)	今後の検討の考え方(案)	参考事例(一例)
   主要検討路線	○ 通りに求められる機能や重要度等を踏まえて、下記を参考に地域や沿道等の関係者と将来像を共有し、取組を検討・推進する	
	・人中心の魅力的なストリートの実現に向けて、道路や沿道が一体となった空間形成を目指し、ハード・ソフトの両面から取組を推進する。	【参考事例】 ・北3条広場、御堂筋将来ビジョン…フルモール ・大手前通り(姫路市)、富山市社会実験…トランジットモール ・南1条通社会実験、葦合南54号線…歩道空間の拡張
	・四季を通じて安全・安心な歩行環境の充実を図るため、まちづくりの動向等を踏まえて、地上・地下の重層的な歩行者ネットワークの拡充を図る。	【参考事例】 ・札幌駅前通地下歩行空間、地下街…通行(回遊)+にぎわい等 ・北8西1地下通路…通行(回遊) ・因幡町通り地下歩道(福岡市)…通行(回遊)
 拠点的交流空間 検討箇所	・歩行者・自転車の通行や沿道へのアクセス環境に配慮しつつ、既存の道路空間の有効活用を図る。	【参考事例】 ・三宮中央通り…パークレットの設置 ・さっぽろシャワー通り…ベンチ等の設置
	・地域の活動や回遊を生み出す拠点として、骨格軸等の主要な通りの結節点において、官民が連携して魅力的な空間の創出を検討する。	【参考事例(広場空間)】 ・狸二条広場、Ginza Sony Park(暫定利用) 【参考事例(沿道施設における滞留空間)】 ・ココノススキノ、4丁目PLACEなどの公開空地 【参考事例(辻空間の魅力化)】 ・創成川公園(街路樹やプランター、ベンチ等の配置)

【参考事例】



【参考】御堂筋将来ビジョン
(大阪市)



【参考】トランジットモール社会実験
(富山市)



【参考】葦合南54号線
(神戸市)



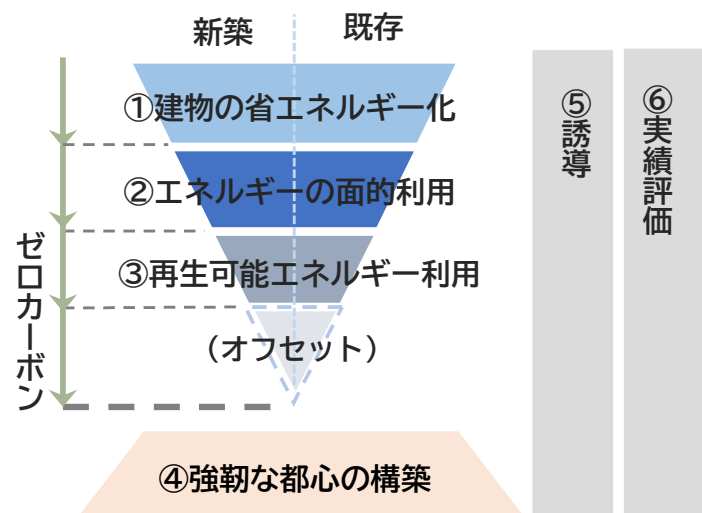
【参考】因幡町通り地下歩道
(福岡市)



【参考】パークレット
(神戸市)

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (3)目標3の実現に向けた取組の方向

目標3
気候風土に即した先進的な取組により
脱炭素化・強靱化が進む都心



建物における目標実現に向けた取組イメージ
※①～③毎の削減割合については、検討中

3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

- 目標達成に向けたCO2排出量の削減手法として「①建物の省エネルギー化」「②エネルギーの面的利用」「③再生可能エネルギー利用」を位置付け、建物の立地、規模、用途構成などに応じて、最適な手法の組み合わせにより都心の脱炭素化を推進。
- 一方、現時点においては①～③の削減手法だけでは脱炭素化の実現が困難なことから、ゼロカーボンを達成するための不足分を補うため、当面の間の手法として「オフセット」を位置付け。
- 計画期間中(20年以内)の建替え予測を踏まえ、既存建物への取組を強化。

3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

- 誰もが安全・安心に都市活動を行えるよう「④強靱な都心の構築」を位置付け、まちづくりとエネルギー施策が連携した取組により強靱化を推進。

3-3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

- 建物の特性に応じた効果的な取組の「⑤誘導」と適切な「⑥実績評価」により取組の実効性を確保。

基本方針

基本方針3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

3-1-1 建替更新・改修時の徹底した省エネ化の推進

取組の方向

- ・ 建替更新や改修時における省エネ化（ZEB、ZEH-M、ZEH水準の確保）
- ・ 建物の立地、規模、用途構成などに応じた効果的な省エネ設備の導入拡大
- ・ 新築建物に加えて既存建物へのBEMS導入拡大

取組を進める
エリア区分

脱炭素化・強靱化
先導エリア

脱炭素化
推進エリア

脱炭素化
促進エリア

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

《既存建物への取組》

- ・ 既存建物についてBEMSの導入や効果的な省エネ改修（ZEB改修等）を誘導 など

《新たな手法の位置づけ》

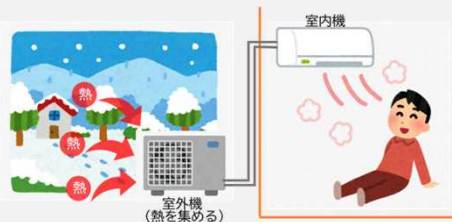
- ・ 現行マスタープランに明記されていないヒートポンプ等の取組について明記

など

<立地・規模・用途構成に応じた効果的な省エネ設備の例>

ヒートポンプ

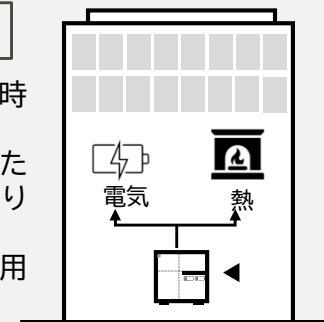
- ・ 大気中の熱などを利用することにより、少ないエネルギーで効率的に冷暖房や給湯を行うことが可能。
- ・ 動力源として電力（EHP）とガス（GHP）に大別される。
- ・ 様々な規模、用途の建物での活用を想定。



ヒートポンプによる暖房のイメージ

マイクロコージェネレーションシステム

- ・ 個々の建物において排熱利用による平時のエネルギー利用効率の向上に寄与。
- ・ 災害等により万が一系統電力が途絶した場合においても、電力の供給継続により強靱化にも有効。
- ・ 給湯や暖房等の熱需要の大きい建物用途での活用を想定。



マイクロコージェネレーションシステムのイメージ

基本方針3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

3-1-2 エネルギーの面的利用の更なる拡大と効率化

取組の方向

- ・ 大規模開発と連動したエネルギーセンターの整備による冷温水熱供給ネットワークの拡大
- ・ 冷温水熱導管ネットワークへの接続の推進と導管の整備拡充
- ・ 複数のエネルギーセンター間の連携に向けた熱導管の拡充
- ・ エネルギーセンターへの新技術の導入（ICT活用による高効率化など）
- ・ エネルギーセンターにおける熱の脱炭素化
- ・ 既存の熱導管への接続が難しい地域においては拠点型熱供給などを推進

取組を進める
エリア区分

脱炭素化・強靱化
先導エリア

脱炭素化
推進エリア

脱炭素化
促進エリア※

※脱炭素化促進エリアにおいても大規模開発が見込まれる場合には拠点型熱供給などの取組を推進。

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

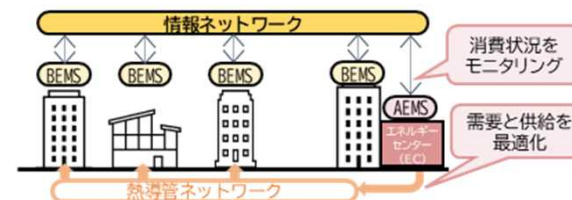
- ・ エネルギーセンターにおけるカーボン・オフセット都市ガスへの切替え

など

<ICT活用によるエネルギーセンター効率化の例>

エリアエネルギーマネジメントシステム(AEMS)

- ・ 地域全体のエネルギー消費をリアルタイムで監視・管理することにより全体最適を図り、効率的にエネルギーを利用。



変温度供給システムの構築

- ・ 気象条件等に応じて熱供給温度を変化させ、熱源機器の運転負荷を抑制することにより、運転効率を向上。

基本方針3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

3-1-3 先進技術を活用した再生可能エネルギーの導入

取組の方向

- ・ オンサイトでの再エネ導入（太陽光発電、太陽熱など）
- ・ オフサイトPPAによる再エネ電力の導入
- ・ 道内自治体との連携による再エネ電力の導入
- ・ エネルギーセンターへのバイオマスなどの再エネ利用の拡大
- ・ 再エネに由来する水素エネルギーの都心への導入検討
- ・ 当面の間の有効な手法としての再エネ由来クレジット等を活用したCO2オフセット

取組を進める
エリア区分

脱炭素化・強靱化
先導エリア

脱炭素化
推進エリア

脱炭素化
促進エリア

（仮称）中期アクションプログラムにおける取組イメージ

- ・ 都心の特性に応じた再エネ導入の手法として建材一体型太陽光発電設備やペロブスカイト太陽電池などの新技術の導入促進
- ・ 再エネ由来水素の具体的な導入方策の検討

など

<共同住宅の脱炭素化の取組例>

一括受電方式

- ・ 一括受電とは、共同住宅において、住戸毎の個別の電力契約ではなく管理組合等が建物全体で一括して電力契約を結び、各住戸に電力供給する方式
- ・ 一括受電方式により再エネ100%電力を導入することで建物全体として使用する電力を一斉に脱炭素化することが可能

■4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (3)目標3の実現に向けた取組の方向

基本方針3-1 最適な手法の組み合わせによる脱炭素化の推進

3-1-1～3-1-3で示される取組の方向を踏まえたエリア区分毎の取組の考え方を示します。

エリア区分毎の取組の考え方

脱炭素化・強靱化先導エリア

熱供給ネットワークインフラの活用 様々な都市機能の集積 都市開発が活発

- 大規模開発等と連動したエネルギーセンターの整備
- 熱供給ネットワークインフラへの接続
- 複数のエネルギーセンター間の連携に向けた熱導管の拡充
- エネルギーセンターの脱炭素化に向けた新技術の導入

脱炭素化推進エリア

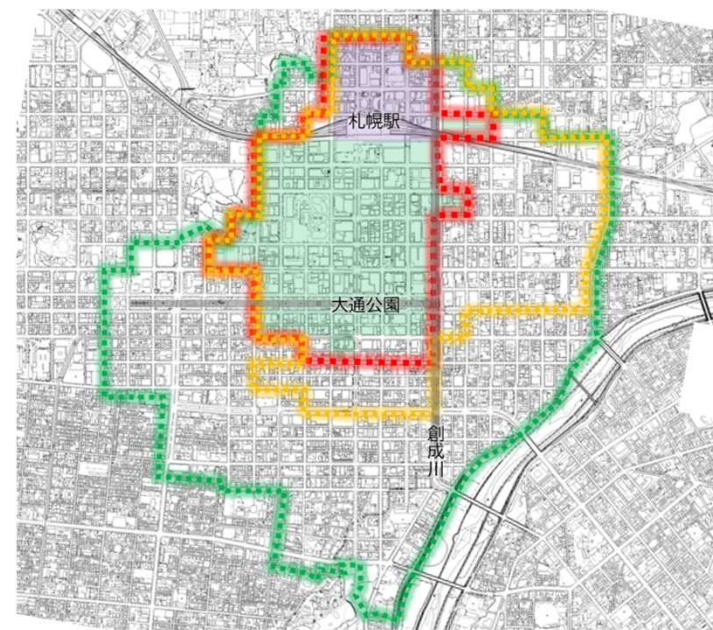
都市再生に寄与する都市開発が進展

- 面的開発が検討される場合は、複数街区間で最適なエネルギー利用がなされるよう拠点型熱供給等を誘導

脱炭素化促進エリア

個別的な建替えや改修が進展

- 建物の立地・規模・用途構成等に応じた脱炭素化の取組を誘導
 - ✓ 比較的大規模な開発については、個々の建替え時における徹底した省エネと太陽光発電設備の導入によりZEB・ZEH-M化を誘導
 - ✓ 小規模な建物については、ZEB・ZEH-M・ZEH化や省エネ改修等に係る支援策を効果的に活用



<支援策の例(現行の支援策)>

- ZEBセミナー
- ZEB、ZEH-M設計支援
- 暖房・給湯機器のエネルギー源転換の促進
- 札幌市住宅エコリフォーム補助制度
- 札幌版次世代住宅(ZEH相当以上の住宅)の普及
- 再エネ省エネ機器導入補助制度
- 既存集合住宅省エネ改修コンサルタント派遣事業

など

基本方針3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

3 - 2 - 1 災害時における市民、来街者、ワーカーの安全確保

取組の方向

- ・民間建築物等の耐震化の推進
- ・地下空間における浸水被害に備えた対策の推進
- ・帰宅困難者や観光客を受け入れる、冬季の利用も想定した一時滞在施設の整備促進
- ・一時滞在施設への電力・熱・水の供給継続
- ・デジタル技術の活用等による災害発生時における来街者への情報伝達の強化、多言語化の推進

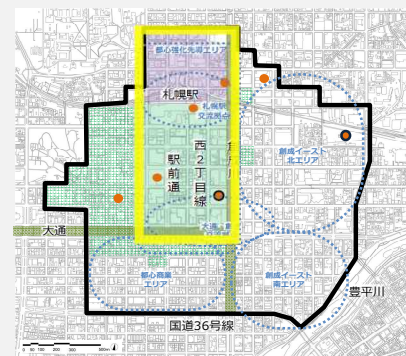
(仮称) アクションプログラムにおける取組イメージ

- ・民間建築物耐震化促進事業など
- ・開発誘導方針の運用を通じた一時滞在施設・備蓄倉庫の整備促進、非常用発電機の導入誘導など

<現行マスタープランにおける「強靱」の評価(参考)>

- ・現行の都心エネルギーマスタープランにおいては「強靱」に係る目標として「2050年までに都心強化先導エリアの分散電源比率を30%以上」を設定。
- ・これに対して2024年時点における分散電源比率は約19%
- ・また、現在計画中の建物を含めると約28%となり、概ね達成される見込み。

都心強化先導エリアにおける分散電源比率の見込み
 自立分散電源(33,452kW) ÷ 契約電力推計(120,845kW)
 = 28%



現行計画の対象区域
 都心強化先導エリア

基本方針3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

3-2-2 経済活動を維持するための備えの充実

取組の方向

- ・非常用電源の整備促進(CGS、非常用自家発電機の整備など)
- ・建替更新や改修時における省エネ化の促進(再掲)
- ・大規模開発と連動したエネルギーセンターの整備(再掲)
- ・冷温水熱供給ネットワークへの接続の推進(再掲)

(仮称) アクションプログラムにおける取組イメージ

- ・建物の省エネ化、非常用電源の整備、など

3-2-3 多様な主体による防災に向けた取組の促進

取組の方向

- ・避難訓練や帰宅困難者の受入訓練の実施
- ・エリアマネジメントと連携した防災対策の推進
- ・帰宅困難者の受入空間としてパブリックスペースの活用

(仮称) アクションプログラムにおける取組イメージ

- ・札幌市都心地域帰宅困難者等対策協議会の開催、エリアマネジメント活動の促進、など

4.1 目標の実現に向けた取組の方向 (3)目標3の実現に向けた取組の方向

基本方針3-3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

3-3-1 建物の特性に応じた効果的な取組誘導

取組の方向

- ・ 「札幌都心E！まち開発推進制度」における事前協議の運用改善（建物の立地、規模、用途構成などに応じた誘導を可能とするための対象範囲や評価方法等の再検証）
- ・ 既存建物の改修等を促す方策の導入

3-3-2 着実に脱炭素化を推進するための実績評価

取組の方向

- ・ 「札幌都心E！まち開発推進制度」における運用実績報告によるCO2削減量のモニタリング及び公表
- ・ モニタリング結果を適切に評価し追加施策を検討
- ・ 特に優れた取組を実施する建物の認定及び公表

（仮称）中期アクションプログラムにおける
取組イメージ

≪既存建物≫

- ・ 「札幌都心E！まち開発推進制度」における既存建物の対象範囲の拡充を検討
- ・ 初期段階における検討を支える支援方策の検討（ZEBプランナーの紹介制度や省エネ診断の推進等）

≪新築建物≫

- ・ 「札幌都心E！まち開発推進制度」の協議対象の拡大

≪共通≫

- ・ 「札幌都心E！まち開発推進制度」における評価方法の再検証
- ・ 容積率緩和によらない支援制度の検討など

（仮称）中期アクションプログラムにおける
取組イメージ

≪評価手法≫

建物における目標実現に向けた取組イメージ（P.19）に示す「①建物の省エネルギー化」「②エネルギーの面的利用」「③再生可能エネルギー利用」の効果を検証

≪協議対象≫

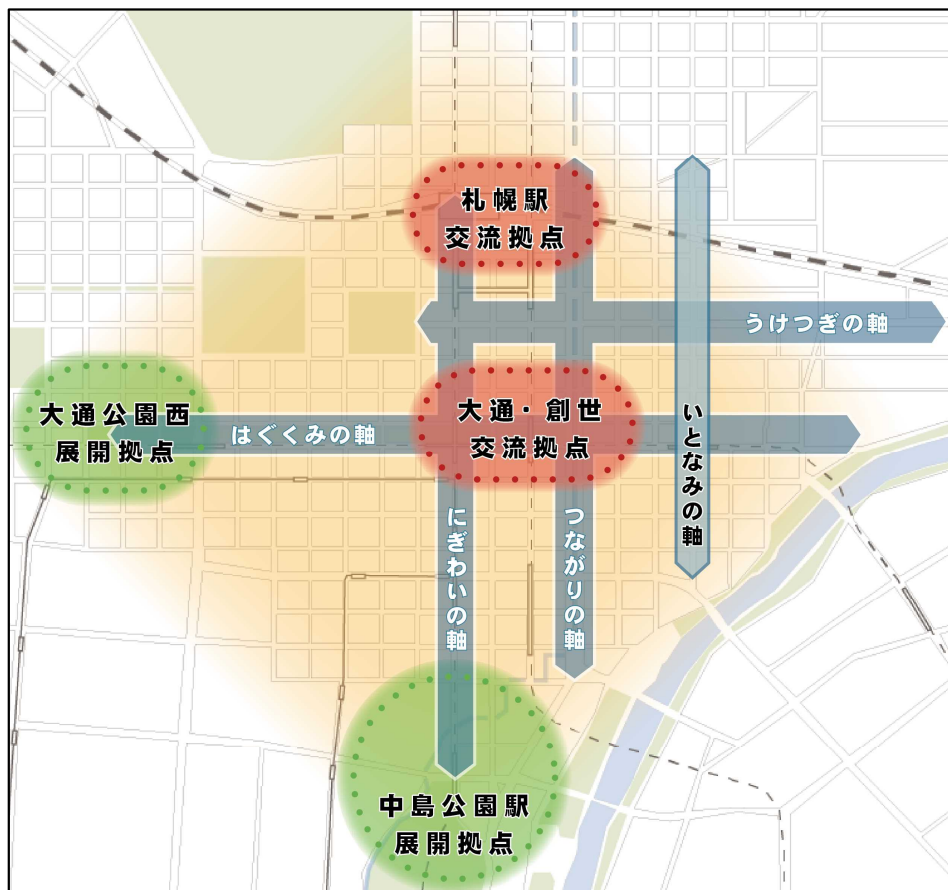
モニタリングの観点から「札幌都心E！まち開発推進制度」における協議対象の範囲を見直し

4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向

4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

次ページ以降で、各軸と拠点での取組の方向を示します。



【図】都心の骨格構造（案）

【軸と拠点の目指す姿】

骨格軸	にぎわいの軸 (駅前通)	札幌の目抜き通りとして、都心の回遊性をけん引し、にぎわいをつなぐ軸
	はぐくみの軸 (大通)	大通公園と沿道が一体となり、札幌都心の象徴性を高め、新たな価値をはぐくむ軸
	つながりの軸 (創成川通)	広域から都心へのアクセスを支えながら、東西のまちのつながりを生む軸
	うけつぎの軸 (北3条通)	東西の回遊を促す、歴史や文化の魅力あふれる街並みをうけつぐ軸
展開軸	いとなみの軸 (東4丁目線)	交流と活気にあふれる沿道から職・住・遊のいとなみを感じる軸
交流拠点	札幌駅 交流拠点	広域的な交通網が結節する札幌の玄関口として国際競争力を先導する拠点
	大通・創世 交流拠点	はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点
展開拠点	大通公園西 展開拠点	都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を生かした多様な交流をはぐくむ拠点
	中島公園駅 展開拠点	地域に培われた歴史・文化と新たな集客・交流機能が調和した都心南端の拠点

4.2.1 骨格軸・展開軸

(1)にぎわいの軸／札幌駅前通

これまでの
主な取組・
成果

- チ・カ・ホの整備、地上部歩道の拡幅
- 沿道開発に伴う地下接続・エネルギーネットワーク接続の拡充
- 地域関係者・まちづくり会社の連携による地区計画やまちづくりルール等の策定、開発の事前調整

今後の
課題

- 沿道からさらにその先へと波及する、奥行きある回遊ネットワークの強化

目指す姿

- 札幌の目抜き通りとして、都心の回遊性をけん引し、にぎわいをつなぐ軸

取組の方向

軸全体
(共通)

- ・ 地区特性に応じた街並みや低層部における機能の誘導を図り、象徴的な目抜き通りを形成
- ・ 沿道からさらに奥のエリアに取組を展開し、回遊性を向上

a

- ・ 札幌の玄関口である札幌駅交流拠点と呼応する高質な空間の形成
- ・ エネルギーネットワークの強化
- ・ 地上・地下の回遊性向上

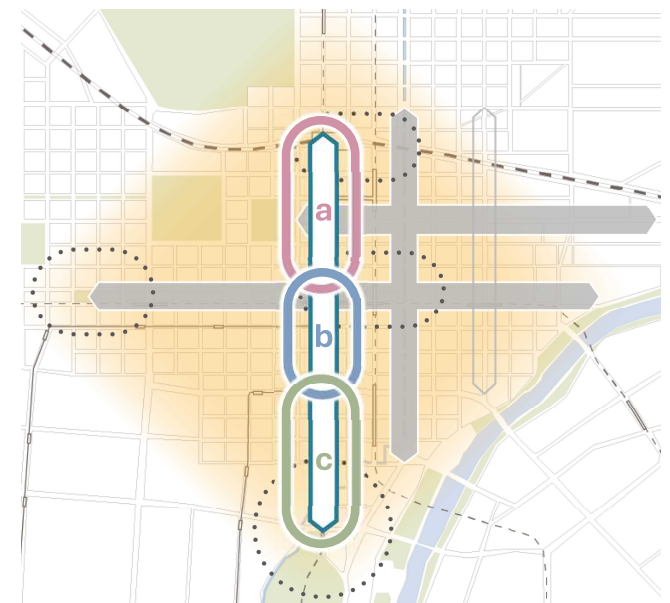
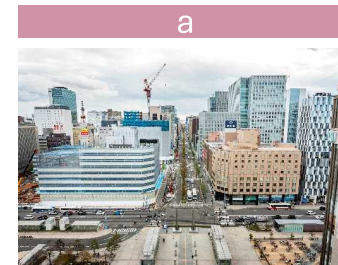
b

- ・ 商業街の歴史を継承した個性と賑わいを感じる魅力的な路面を形成
- ・ 面的なエネルギー利用を推進
- ・ 地上・地下の回遊性向上

c

- ・ 昼の賑わい創出に加え、安心・安全な夜間観光の魅力の発揮
- ・ 中島公園駅展開拠点と呼応した通りへのにぎわいの表出や高質化
- ・ 駅前通南端からの回遊性の向上

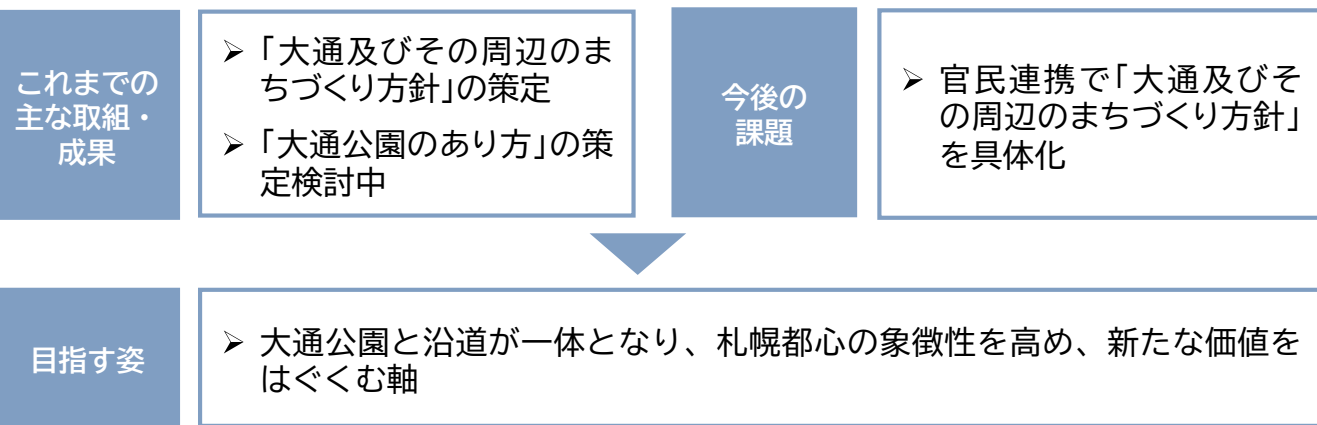
R6. 11月撮影



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

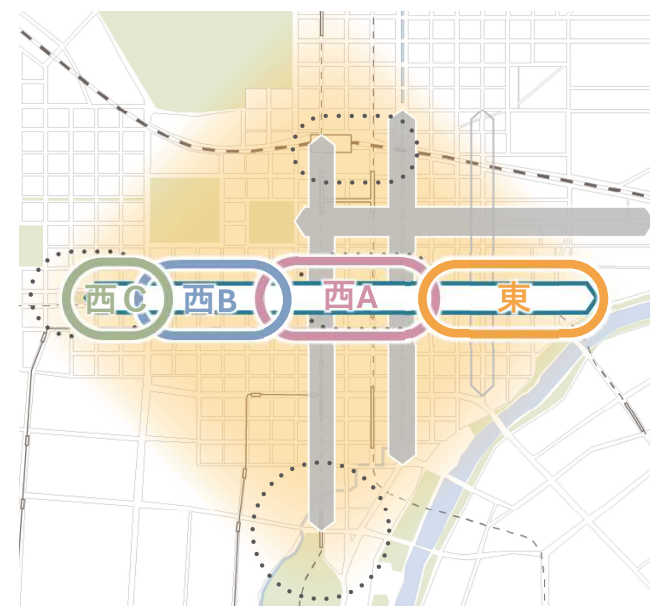
4.2.1 骨格軸・展開軸

(2)はぐくみの軸／大通



取組の方向

軸全体 (共通)	- 公園・道路空間・沿道が一体となり、魅力的な街並み・連続したみどりの空間を形成 - 沿道からさらに奥のエリアに取組を展開し、回遊性を向上 - 市民・企業・行政などの協働による、道路空間を含むパブリックスペースの多様な利活用
西A	大通・創世交流拠点の取組と連動
西B	居住や業務が共存し、まちに開かれた沿道空間を創出
西C	大通公園西展開拠点の取組と連動
東	西側の活力を引き込み創成東地区の資源を活かした空間形成



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1 骨格軸・展開軸

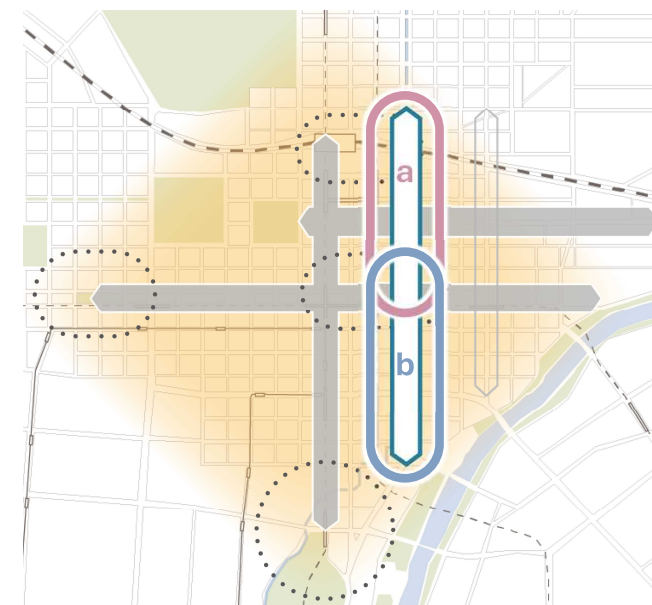
(3)つながりの軸／創成川通

これまでの 主な取組・ 成果	➤ 創成川公園・狸二条広場の整備・活用 ➤ 都心アクセス道路の事業推進	今後の 課題	➤ 都心アクセス道路の整備と新幹線の開業を見据えた更なる魅力の向上
目指す姿	広域から都心へのアクセスを支えながら、東西のまちのつながりを生む軸		



取組の方向

軸全体 (共通)	・ 創成川と呼応する潤い・落ち着きのある空間の形成 ・ 東西市街地をつなぎ、回遊性を向上 ・ 都心アクセス道路の整備によって広域からのアクセス性を向上
a	・ 札幌駅交流拠点と調和がとれた街並み・眺望の形成 ・ 新幹線開業を見据えたパブリックスペースの充実
b	・ 親水空間を活かして整備されたパブリックスペースの多様な利活用



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1 骨格軸・展開軸

(4)うけつぎの軸／北3条通

これまでの 主な取組・ 成果	➤ 北3条広場の整備・活用 ➤ 創成川以東の電線地中化等による景観の向上	今後の 課題	➤ 新幹線の開業を見据えた東西方向の回遊性の向上
----------------------	---	-----------	--

目指す姿 東西の回遊を促す、歴史や文化の魅力あふれる街並みをうけつぐ軸

取組の方向

軸全体
(共通)

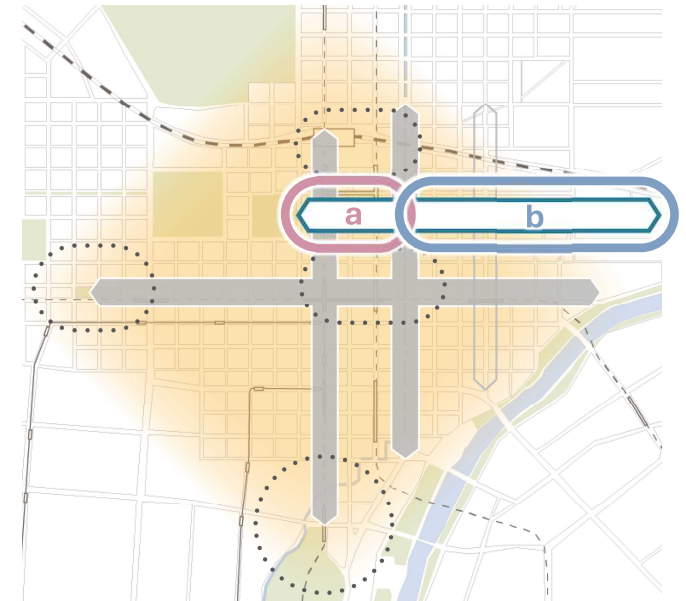
- 沿道の歴史資源と調和した街並みの形成
- 東西方向の快適な移動環境の充実
- 地域資源を活かして整備されたパブリックスペースの多様な利活用

a

- にぎわいの軸からの活気・回遊の波及

b

- 苗穂駅方面への活気・回遊の波及



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.1 骨格軸・展開軸

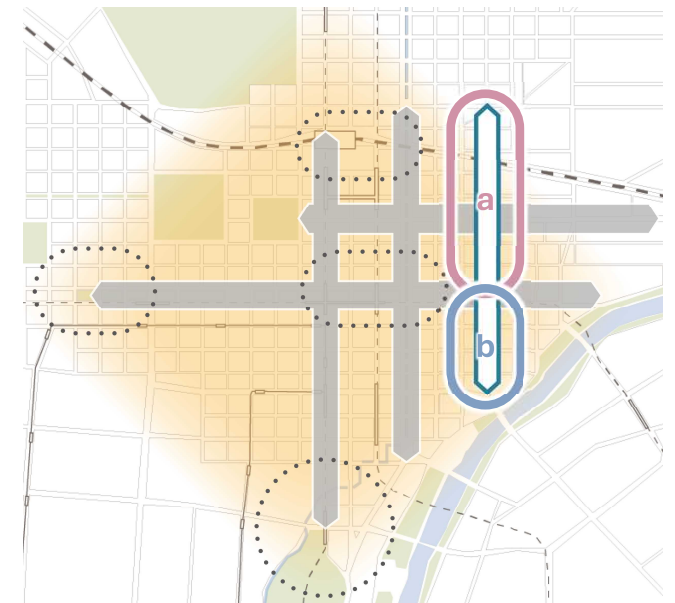
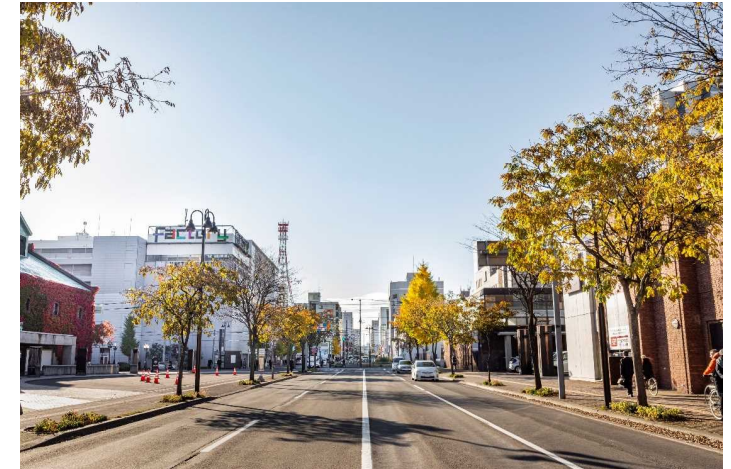
(5)いとなみの軸／東4丁目通

これまでの 主な取組・ 成果	➢ 沿道を含む創成東地区の地区計画策定 ➢ 歩道拡幅・電線地中化・クランク解消に向けた事業推進 ➢ 沿道における民間開発の進展	今後の 課題	➢ 都市計画道路の再整備に伴うにぎわい創出と回遊性の向上
-------------------------------	---	-------------------	--

目指す姿	交流と活気にあふれる沿道から職・住・遊のいとなみを感じる軸
-------------	--------------------------------------

取組の方向

軸全体 (共通)	・ 通りと沿道が一体で街並み、潤いを感じるみどりを創出 ・ 道路整備を通じて、快適な移動空間、コミュニティを育むパブリックスペースを創出
a	・ 市民・企業・行政などの協働による、道路空間を含むパブリックスペースの多様な利活用 ・ クランク解消により生まれる空間の有効活用 ・ 面的なエネルギー利用を推進
b	・ まちづくりの取組と連携したパブリックスペースの有効活用



4.2.2 交流拠点・展開拠点

(1) 札幌駅交流拠点

これまでの
主な取組・
成果

- 新幹線の開業を見据えたまちづくり計画の策定
- 北5西1・2地区市街地再開発事業等の事業推進
- 創成川東西市街地の連続性強化に向けた検討

今後の
課題

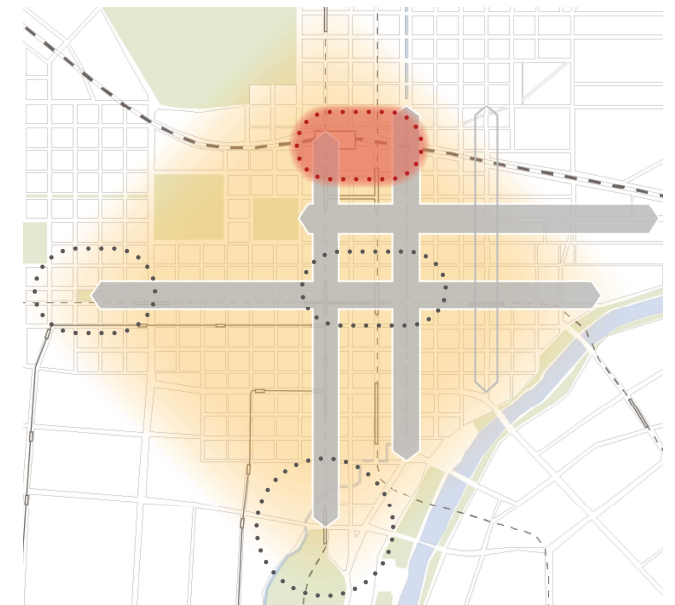
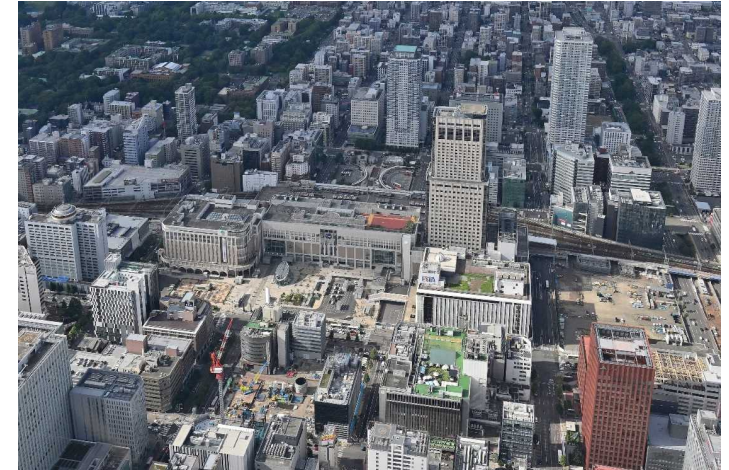
- 新幹線整備と連動した周辺再開発の着実な推進
- 長期化する工事期間中の機能確保や賑わいの維持
- 交通結節機能の強化と、歩行環境の充実

目指す姿

広域的な交通網が結節する札幌の玄関口として国際競争力を先導する拠点

取組の方向

- ・ 骨格軸との連動により、札幌の玄関口にふさわしい魅力的な空間形成
- ・ 国際水準の高次都市機能の集積
- ・ 新幹線の開業を見据えた交通結節点の強化
- ・ 先進技術やエネルギーネットワークインフラを活用した脱炭素化・強靱化の先導
- ・ 広域交通結節点と都心内の移動手段との接続の円滑化
- ・ 創成川東西市街地の連続性強化
- ・ パブリックスペースの多様な利活用の促進
- ・ エネルギーネットワークの強化
- ・ 来街者の安全確保、経済活動の機能維持



4.2.2 交流拠点・展開拠点

(2)大通・創世交流拠点

これまでの
主な取組・
成果

- 創世スクエア開業に伴う新たな交流拠点機能の創出
- 「大通及びその周辺のまちづくり方針」の策定(西Aゾーンに位置づけ)
- 大通西4南地区市街地再開発事業の推進
- 市役所本庁舎のあり方について検討開始

今後の
課題

- 骨格軸や地域資源との連携による更なる象徴性の創出
- 骨格軸を介した東西市街地の連携強化
- 官民連携によるまちづくりの推進

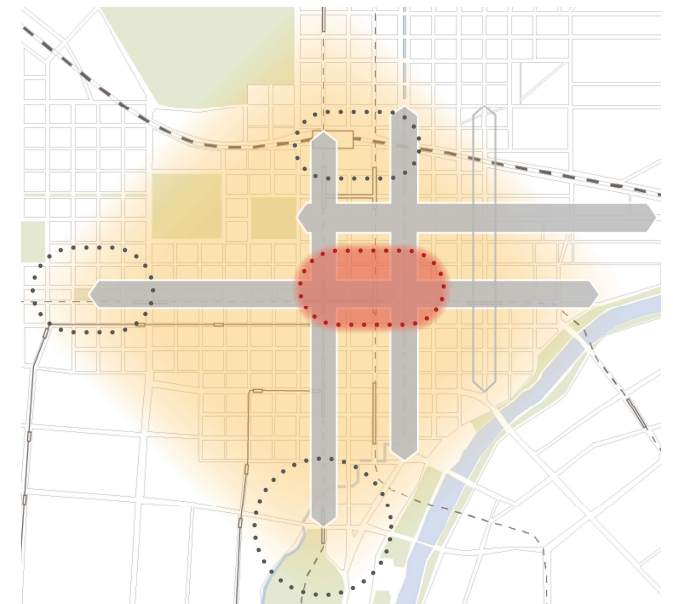


目指す姿

はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点

取組の方向

- ・ 複数街区での連鎖開発と相互連携を通じた新たな象徴空間の創出
- ・ 都心の回遊性を高める交通環境の構築
- ・ 魅力的な滞在空間や歩行者動線の創出
- ・ 先進技術やエネルギーネットワークインフラを活用した脱炭素化・強靱化の先導
- ・ 地域資源（観光、文化・芸術、交流施設等）と連携した都市文化拠点の形成による象徴性の創出



4.2 都心の骨格構造の強化に向けた取組の方向

4.2.2 交流拠点・展開拠点

(3)大通公園西展開拠点

現況・動向

- 「大通及びその周辺のまちづくり方針」の策定(西Cゾーンに位置付け)
- まちづくりガイドラインの策定に向け検討中
- 市有地(芸文館跡地)の利活用の検討

課題

- 地域の資源や特性をさらに生かす取組の必要性
- はぐくみの軸のまちづくりの効果の「軸」外側への波及

目指す姿

都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を生かした多様な交流をはぐくむ拠点

取組の方向

- ・ 地域資源(みどり、歴史文化・芸術)やまちの特性を活かしたまちづくりや市有地の利活用
- ・ 大通公園、沿道街区、地域資源などが調和し、一体感を感じられる街並みの形成
- ・ はぐくみの軸の賑わいを都心西側やその周辺につなぐ歩いて回れるネットワークの強化

(4)中島公園駅展開拠点

現況・動向

- 「新MICE施設整備基本計画」の策定(H30)(再検討中)
- まちづくり基本構想の策定(R3)
- 中島公園のあり方検討の実施(R5~6)
- まちづくりガイドラインの策定に向け検討中

課題

- 回遊性の向上とにぎわいの創出
- 地域資源の魅力向上とそれを生かした取組の展開
- MICE開催を支える機能の充実
- まちづくりの体制構築

目指す姿

地域に培われた歴史・文化と新たな集客・交流機能が調和した都心南端の拠点

取組の方向

- ・ 駅前通への通りに開かれた商業・交流機能などの誘導と街並み景観に配慮した空間の高質化
- ・ 鴨々川や寺社などの地域資源を生かした歩いて楽しめる空間の形成
- ・ 駅前通南端からの回遊性の向上
- ・ 新MICE施設と中島公園北口の魅力的な空間の創出
- ・ MICE開催に対応した機能の誘導やMICE参加者が楽しめる環境の充実

